

「脳卒中の急性期診療提供体制の変革に係る実態把握及び有効性等の 検証のための研究」のお知らせ

脳梗塞（急性期虚血性脳卒中：acute ischemic stroke; AIS）に対する治療としては、t-PA 静注療法（intravenous recombinant tissue-plasminogen activator; IV t-PA）という強い血液を固まりにくくする薬と、主幹動脈（太い血管）閉塞の場合にはカテーテル治療（機械的血栓回収療法：mechanical thrombectomy; MT）の有効性が確立しています。この2つの治療をできるだけ早く、多くの方に実施することで患者さんの後遺障害が減ることが期待されます。

多くの病院の中でも、この t-PA 静注療法を常時実施できる一部の病院（一次脳卒中センター）と、さらにカテーテル治療もできる一部の病院（血栓回収療法実施可能または包括的脳卒中センター）に分けることができます。（当院はカテーテル治療のできる病院です）。

一般の病院で診断された脳梗塞患者さんは、速やかに脳卒中センターに転送して治療することが勧められますが、コロナウイルス感染症がひろがる中、診療体制にどのような影響を与えているかについても検討する必要があります。そこで、日本の脳卒中治療をリードしてきている神戸市立医療センター中央市民病院の坂井信幸先生が主任研究者となって急性期脳卒中の診療体制に及ぼす影響を検証する研究が計画されており、当院も参加しています。

＜研究対象＞当院脳神経外科で2019年1月1日から2021年12月31日の期間に、急性虚血性脳卒中に対して血管内治療を受けられた全患者さん

＜研究期間＞2024年3月31日までを予定しています。

＜研究内容＞年齢や性別、病名、重症度、治療内容、臨床検査値、CT等の画像所見、治療経過、予後などを診療録より調べます。

＜主任研究者＞神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 坂井 信幸

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。研究結果は、研究代表者に情報を提供します。また、学会や出版物として公表することがありますが、いかなる場合でも個人情報が増えることはありません。プライバシーは守られます。本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。

本研究の趣旨をご理解いただき本研究に参加をお願いします。もし参加を望まれない場合は研究から除外しますので担当医師にお申し出ください。研究が始まった後でも自由に参加を取りやめることができますのでその際も担当医師にお伝えください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。また、ご質問がある場合も担当医師にお伝えください。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2021年4月5日

京都桂病院 脳卒中センター 所長 中嶋 教夫